

第106回 卒業式を挙



東京千代田区富士見
日本歯科大学新聞会
発行兼 中原 泉
編集人 偶数月末日
発行日 1部10円
発定 編集室 (〒951-8580)
新潟市中央区浜浦町1-8
☎ 025 (267) 1500



本学のシンボルマーク

両学部166名が巣立つ 卒業証書番号No.211002号に

日本歯科大学第一〇六回卒業式(学位記授与式)は、三月初旬両学部において挙行し、一六六名の学士(歯学)を送り出した。あわせて日本歯科大学大学院第五十四回修了式が催され、二十九名に博士(歯学)の学位記が授与された。また、東京短期大学と新潟短期大学の卒業式も挙行された。

第54回大学院修了式を併催

生命歯学部は、三月初八日(水)に生命歯学部富士見ホールにおいて大学院第五十四回修了式を併催して挙行された。定刻午前十時、司会の高橋孝幸庶務部長が開式を宣した。まずクラス主任の福田雅臣教授より、平成二十八年卒業生十六名、六九年皆勤賞



告辞を述べる中原泉学長(上・3月8日東京、下・3月10日新潟)



十三名、精勤賞十六名、五九年皆勤賞一名、精勤賞三名、学術奨励賞十名、臨床実習優秀賞三名の受賞者に対して賞状等が授与された。

新潟生命歯学部

新潟生命歯学部の部研究科委員の今井敏夫教授より、大学院生命歯学研究科博士課程修了生二十五名の氏名が呼びあげられ、修了生一人ひとりに、研究の成果を証する博士(歯学)の学位記が授与された。

つぎに中原学長と、羽村章生命歯学部部長、八重垣健大学院生命歯学研究科長が告辞(別掲)を述べた。

つづいて在学生を代表して、第五学年の井上陵平君が先輩を送る送辞を述べ、卒業生を代表して西牧麻由里さんが、大学院修了生を代表して白鳥

沙久良さんが答辞を述べた。終わりに祝電が披露され、全員で校歌を斉唱し、十二時三十分閉式した。

六九年精勤賞一名、五九年精勤賞一名、学術奨励賞三名、臨床実習優秀賞一名の受賞者に対して賞状等が授与された。

ついで大学院新潟生命歯学研究科長の新海航一教授より、新潟生命歯学研究科博士課程修了生四名の氏名が呼びあげられ、修了生一人ひとりに、研究の成果を証する博士(歯学)の学位記が授与された。

ついで専攻科歯科衛生学専攻修了生と、専攻科歯科技工学専攻修了生は、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構より学位(口腔保健学)の学位記を取得したことが報告された。

東京短期大学

東京短期大学の卒業式は、短大事務室の今井久枝書記の司会により三月七日午前十時より、生命歯学部富士見ホールにおいて挙行された。

まず第四十四回歯科衛生学専攻卒業生七十七名と、第四十八回歯科技工学専攻卒業生三十三名の氏名が呼びあげられ、小口春久学長から栄えある卒業の証として、各学科の代表に短期大学士(歯科

衛生学)と短期大学士(歯科技工学)の学位記が授与された。

ついで第四十六回専攻科歯科技工学専攻五名、第四回専攻科総合専攻専攻九名と、第四回専攻科口腔リハビリテーション学専攻四名、第八回専攻科歯科衛生学専攻十名に修了証が、また各賞の受賞者に表彰状が授与された。

新潟短期大学

新潟短期大学の卒業式は、須貝将紀短大事務部長の司会で、三月九日午前十時三十分より、新潟生命歯学部講堂で挙行された。

まず第三十二回歯科衛生学専攻卒業生五十九名に、又賀泉学長から栄えある卒業の証として、一人ひとりに短期大学士(歯科衛生学)の学位記が授与され、各賞の受賞者に表彰状が授与された。

ついで公益社団法人日本歯科衛生士会からの表彰状が、新潟県歯科衛生士会の三富純子会長(新潟短大准教授)から手渡された。

ついで、第十八回専攻科歯科衛生学専攻修了生六名と、第二回専攻科が

病院長は、「みなさんは四月から社会人になるが、これからは自分たちで対応しなければならぬ。特に患者さんからのクレーム対応などで、いやな思いをすることがあるかもしれない。しかし、患者さんや施設の人から喜ばれるという喜びのほうが大きいだろう。われわれ医療に従事する者は研鑽義務があるの

で、一生の仕事として頑張ってもらいたい」と祝辞を述べた。

ついで、専攻科歯科衛生学専攻修了生と、専攻科歯科技工学専攻修了生は、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構より学位(口腔保健学)の学位記を取得したことが報告された。

ついで、専攻科歯科衛生学専攻修了生は、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構より学位(口腔保健学)の学位記が授与された。

ついで、専攻科歯科衛生学専攻修了生は、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構より学位(口腔保健学)の学位記が授与された。

ついで、専攻科歯科衛生学専攻修了生は、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構より学位(口腔保健学)の学位記が授与された。

ついで、専攻科歯科衛生学専攻修了生は、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構より学位(口腔保健学)の学位記が授与された。

ついで、専攻科歯科衛生学専攻修了生は、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構より学位(口腔保健学)の学位記が授与された。



卒業式点景



ついで、専攻科歯科衛生学専攻修了生は、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構より学位(口腔保健学)の学位記が授与された。

中原 学長卒業告辞



中原学長：歯科医師としての役割と働き方を再考しなければならない

◆超高齢社会を生きる

昔話になるが、江戸時代の武將真田幸村の兄信之は、戦国を生きぬいて九十二歳の長寿を全うした。江戸後期の浮世絵師の葛飾北斎は、八十九歳まで生きた。同時代の読本師の滝沢馬琴は、八十一歳で亡くなった。

明治時代になって、小説家の夏目漱石は四十九歳で逝去したが、友人の歌人の佐々木信綱は九十一歳、漱石の弟子の哲学者で学習院長の安倍能成は八十九歳まで生きた。このように江戸や明治時代にも、長生きをした人はいた。けれども、やはり生れついで根っから丈夫でないと、長生きはできなかった。將軍のお世継ぎが、はしかでコロコロ死んだ。大きな病いよりも、小さな病いでもじきに重症化して、呆気なく生命を奪われるのが普通だった。

乳幼児の死亡が多く、全体の死亡率を引き下げたので、当時、平均寿命は三十歳ほどだった。武家は四十になると隠居して、家督を譲った。信長が人間五十年と謡ったように、人生五十年が寿命だった。

江戸後期の思想家の頼山陽は、「五十の兒に七十の母あり。この福、人間得ることまさに難(かた)かるべし」と記した。彼は五十歳、母親は七十歳で健在だった。これ以上の幸せはない、このような福を得ることは至難である。と天命に祈っている。七十歳は文字通り古稀、古来稀なりだった。

頼山陽の母子の構図は、今では八十の兒に百の母となった。現在、百歳以上の人は、全国に六万五千人いるという。これは喜ばしいことであり、また、たいへん恐ろしいことでもある。昨年の朝日新聞の朝日歌壇に、こんな短歌が載っていた。「我がいのち一日(ひとひ)伸ばすに妻はいのち一日縮むる老老介護」。投稿したご主人が寝たきりで、毎日、高

◆歯科医療の多様化

厚生労働省は昨年十一月、「歯科医師の資質向上に関する検討会」で、わが国の歯科医療を取り巻く状況の変化を踏まえた、新たな歯科医療の在り方の検討事項を提示した。その具体策として、①

歯学部長 告辞

生命歯学部 羽村 章



みなさんは卒業試験、国家試験にむけたこの一年間は悔いを残したくないと思つただろう。しかしこの辛かった時間も過ぎてしまえばよい思い出になり、さらなる努力が必要な時に向けての準備であったと思えるときが必ず来る。

剣豪宮本武蔵は生涯にわたって剣術をみがきあ

◆歯口腔と全身病

すでに、歯周病が糖尿病、狭心症、心筋梗塞、脳出血、脳梗塞、認知症

状態にすみやかな対応を求めている。歯科医療は、健康者型の歯の形態の回復から、高齢者型の歯の機能の回復にシフトしている。これは決して健康者型の歯科医療が不要になる訳ではなく、その需要が減少し、高齢者型の需要が増加し、歯科医療の需要のバランスが変わるというのである。われわれは、このように多様化する歯科医療需要に対応するため、歯科医師としての役割と働き方を再考しなければならないだろう。

己の生き方をみつめ、武士としての兵法の道を探求しつづけた。その集大成として、五輪書を著した。「人間においてわが道をよく磨くこと肝要なり」と書かれており、現代社会でもどのような職業においても普遍的な指針だろう。この五輪書には、千日の稽古をもつて鍛とし、万日の稽古をもつて錬とするという鍛錬の語源となった言葉がある。一つの道を究めるには一千日、すなわち約三年間つづけることにより基礎が身につく、一万日すなわち三十年間つづけることによりゆるぎなく完成する、と私は

◆永久背番号一〇六

今やインターネット、人工知能、人工頭脳(AI)の時代になった。将棋の名人戦に象徴されるように、人の頭脳は容赦なく人工頭脳に追い抜かれていく。人類の頭脳がおびやかされるという、かつて体験したことのない世界に突入している。

先般、英国オックスフォード大学の研究者が、AIが進行しても、十年〜二十年後に生き残る仕事なくなる仕事」というデータを発表した。それによると、十年〜二十年後に残る仕事は五十のうち、七位に歯科医、十五位に内科医・外科医、十九位に歯科医だった。医療系の職種が上位を占めている。

同様に、昨年「US News」はアメリカで良いとされる職業ランキングを、職業の成長率、給与、求人率、ストレスレベル、ワークライフバランスなどを

内障(P.O.A.G)の発症リスクが高まることが発見され、とくに過去二年以内の歯の喪失と歯周病が重なること、そのリスクはさらに高まることを示唆した。

このように近年、全身のなかで口腔が注目されている。口腔が全身症の因として、口腔が全身症のリスクに関与していることが次々に明らかにされてきている。口腔常在菌は三〇〇種以上あるのが、今後も様々な研究が試みられて、全身に悪さをするミュータンス球菌が見つかるともいれない。いづれにせよ、今後ますます口腔治療・口腔ケアの重要性が高まることは間違いない。

理解している。本学の目的は学技両全にして人格高尚なる歯科医の育成である。そして本学を卒業するみなさんは、学技両全にして人格高尚なる歯科医でありつづけるためのたえまぬ努力、すなわち鍛錬が求められている。しかし継続を心がけていても、歯科

考慮してランク付けした。良い職業の第一位は歯科医だった。四位が内科医、五位が歯科衛生士だった。もちろん医療制度などが異なるので、そのまま日本に当てはめる訳にはいかない。けれども、明るい話題ではないか。

おわりに、日本歯科大学第一〇六回卒という永久背番号をつけて、社会の荒波に乗り出していく卒業生諸君の健闘を祈る。(3月8日・10日)

き残る仕事なくなる仕事」というデータを発表した。それによると、十年〜二十年後に残る仕事は五十のうち、七位に歯科医、十五位に内科医・外科医、十九位に歯科医だった。医療系の職種が上位を占めている。

同様に、昨年「US News」はアメリカで良いとされる職業ランキングを、職業の成長率、給与、求人率、ストレスレベル、ワークライフバランスなどを

医療、歯科医学の道だけではなく、いろいろな面で結果が出せない壁にぶつかるときがあると、思う。そのようなとき、同級生の存在は大きな力となる。

みなさんが卒業後も密に連絡できるように、大学ドメインの@dent.niigata.ac.jpが付与されたメールアドレス、アカウン

えた。歯科医師の需給問題が議論され、歯科医師は過剰であるとの声が聞かれる。そのペースになったのは、昭和四十四年六月に当時の厚生省が発表した国民医療対策大綱で、その中で西欧先進諸国に準じ、昭和六十年までに人口十万人に対して医師一五〇人、歯科医師五十人とすると記載されている。しかしながらこの結論には二つの問題点がある。一つは昭和四十四年、すなわち四十八年前と現在とは歯科医療の内容が大きく異なっていることだ。現在の歯科医療は、糖尿病、心疾患、認知症等の全身状態に大きく影響を与える医療へと変わり、歯科医師の携わらる医療範囲は昔に比べれば格段に増えている。特



代表者に学位記を手渡す中原学長(新潟)



答辞を述べる卒業生代表(東京)

(3月10日)

大学院研究科長 告辞

生命歯学研究科長
八重垣 健



みなさんの中には、論文締切りぎりぎりまで頑張った方も多いと思う。最後の頑張りのため、食事や喉を通らなかつたという方もいるだろう。しかしそのおかげで、今、何事にもかえがた

新潟生命歯学研究科長
新海航一



今、君たち自身の大学院生活を振り返れば、まさに光陰矢のごとし、この四年間はあっという間に過ぎ去つたと実感しているだろう。

以前ある学生が、「学部学生の頃、研究には全く興味はなく、歯科医師国家試験に合格し、あとは臨床がしつかりでできればいいと思つていた。しかし縁あって、大学院に入学して実際に研究してみるとこんな面白いものはほかにないことを実感した。できれば大学院修了後も研究を続けてみ

と、伝えた。この実現には指導教授の側にも忍耐と大きな努力が求められた。みなさんは、その厳しさを指導教授とともに乗り越え、博士号を得たから自信をもって日本歯科大学博士であることを公けにしたい。ただ指導教授への感謝は一生忘れないでほしい。

四年前、私は大学院研究科長に就任した。そして一週間後みなさんが入学してきた。私の研究科長として目標は、論文の質をあげる、これを第一にあげた。しかしこの目標は実現が非常に難しい。そこで入学の四、五年後に博士号を請求するときは大学院は大きくかわる。今までのように誰もが博士号をとれる時代ではないかもしれない。

大学院全体の学位論文の質を計る方法は非常に難しい。ただ一般的に英語国際論文が幾つ出ているか、これが第一のバロメータになる。今回学位を取得した二十五名中、二十一名が英語国際論文で、九割に及ぶ。他

たい」と話してくれた。私はこの話を聞いて非常に嬉しかった。大学院における研究生活を通して生来この人が持つていた好奇心や探究心がめざまし、このリサーチマインドを持ち続ければ立派な研究者として成長してくれるに違いないと思つた。実験をくり返すうちにコツをつかんでうまくいくようになった、これまでに報告されていない新しい知見があった、そのような経験を通過して座学を中心とした学習では到底味わうことができなかった研究の面白さを味わえたのではないかと思う。

大学と比べて負けない数字である。一方みなさんが大学院に入学した四年前までは二、三個の国際論文が出ればよいほうだった。しかし僅か四年でこれほど国際論文が出るとは私は想像できなかった。みなさんが日本歯科大学をさらに一歩進めてくれたと感謝する。

今後は先輩がまた大学を引っ張ってくれるだろう。特に今日、生命歯学部を卒業した卒業生が研修医をおわる、二年後に本学大学院に入ってくれ

今後先輩がまた大学を引っ張ってくれるだろう。特に今日、生命歯学部を卒業した卒業生が研修医をおわる、二年後に本学大学院に入ってくれ

導に力を発揮していただきたい。また、研究で培つたりサーチマインドと実践力を活かして、ぜひ認定医や専門医を取得されることを願う。諸君の学位論文はすべてインパクトファクター、略してIF付の英文誌に投稿されている。



小口短大学長の告辞に聞き入る卒業生



富士見ホールを埋める卒業生たち(東京短大)

IF付英文誌にアクセプトされた論文は当然高く評価され、所属する研究機関の評価にもつながる。したがって学位論文がIF付英文誌に掲載されるように努力している。

導に力を発揮していただきたい。また、研究で培つたりサーチマインドと実践力を活かして、ぜひ認定医や専門医を取得されることを願う。諸君の学位論文はすべてインパクトファクター、略してIF付の英文誌に投稿されている。

東京短期大学 学長告辞

東京短期大学学長
小口春久



諸君の輝かしい門出にあたり、一言お話ししたい。まず夢を大きくもつてほしい。大きな夢をもつた上で努力に努力を

重ねていただきたい。努力する人は希望を語り、怠ける人は不満を語る。一生懸命努力すればするほど、運は味方する。ぜひ、夢を語る人に成長していただきたい。人が真剣に行動している姿を見るのは美しく、人々に感動を与える。大変でも正しいことを地道に行っていく、その努力の積み重ねが将来の栄光につながる。大きな夢を持つて

大きく羽ばたいてほしい。フランスの作家サン＝テグジュペリの代表作「星の王子様」の中に、本当に大切なものは目に見えない、という有名な言葉がある。皆さんはこれから医療現場に出るが、医療にはホスピタリティ、サービスの両面がある。医療には目に見えないものだけでなく、目に見えないもの

病気に向き合うとき、目に見える病巣部だけを治そうとするが、病気を生み出してしまった心まで治そうとはしない。私たちはもう一度目に見えないものを重視した価値観を思い起こす必要があるのではないだろうか。幸せに豊かに生きるために目に見えないものを心で感じる力が是非必要なのだ。

私が見たいことは、人生の節目についてである。みなさんは今日卒業するが、今までの小学校、中学校、高校と違い、今回大きな節目となる。それはみなさんが自主独立ということになるからだ。自主独立の精神は本学のモットーだが、これからは一人ひとりが責任を自分ですべての責任を自分で背負うということになる。歯科衛生士というの

昨日、東京の生命歯学部の卒業式で中原泉学長が言っていたように、アメリカでの調査では、望ましい職業として、歯科衛生士は五番目で、トップは歯科医師である。これはいろいろな意味があるが、少なくとも好まれる職業であるという点だ。

アメリカではサティファイアイト・デンタルハイパーという職種がある。サティファイアイトとは資格を得たという意味で、日本とはもう一つ大きな言葉は、人生の節目、ターニングポイントであると感じておいてほしい。私も三月三十一日付で定年退職し学長を退任するので、私にとつても節目の年である。みなさんのこれからの活躍を祈つて学長の告辞とする。

さらに資格を取得される。今日の佳き日の一番の大きな言葉は、人生の節目、ターニングポイントであると感じておいてほしい。私も三月三十一日付で定年退職し学長を退任するので、私にとつても節目の年である。みなさんのこれからの活躍を祈つて学長の告辞とする。

又賀短大学長より学位記が手渡される

病気に向き合うとき、目に見える病巣部だけを治そうとするが、病気を生み出してしまった心まで治そうとはしない。私たちはもう一度目に見えないものを重視した価値観を思い起こす必要があるのではないだろうか。幸せに豊かに生きるために目に見えないものを心で感じる力が是非必要なのだ。

私が見たいことは、人生の節目についてである。みなさんは今日卒業するが、今までの小学校、中学校、高校と違い、今回大きな節目となる。それはみなさんが自主独立ということになるからだ。自主独立の精神は本学のモットーだが、これからは一人ひとりが責任を自分ですべての責任を自分で背負うということになる。歯科衛生士というの

昨日、東京の生命歯学部の卒業式で中原泉学長が言っていたように、アメリカでの調査では、望ましい職業として、歯科衛生士は五番目で、トップは歯科医師である。これはいろいろな意味があるが、少なくとも好まれる職業であるという点だ。

アメリカではサティファイアイト・デンタルハイパーという職種がある。サティファイアイトとは資格を得たという意味で、日本とはもう一つ大きな言葉は、人生の節目、ターニングポイントであると感じておいてほしい。私も三月三十一日付で定年退職し学長を退任するので、私にとつても節目の年である。みなさんのこれからの活躍を祈つて学長の告辞とする。

さらに資格を取得される。今日の佳き日の一番の大きな言葉は、人生の節目、ターニングポイントであると感じておいてほしい。私も三月三十一日付で定年退職し学長を退任するので、私にとつても節目の年である。みなさんのこれからの活躍を祈つて学長の告辞とする。

さらに資格を取得される。今日の佳き日の一番の大きな言葉は、人生の節目、ターニングポイントであると感じておいてほしい。私も三月三十一日付で定年退職し学長を退任するので、私にとつても節目の年である。みなさんのこれからの活躍を祈つて学長の告辞とする。

又賀短大学長より学位記が手渡される

流れに逆らつて泳ぐ勇氣、決断力、そして忍耐力である。いつも他人の影に寄り添っていたり、こだまであつたりしてはいけない。自分の力で試し、自分の頭で考え、自分の意見を発表すべきなのだ。

歯科技工士会、歯科衛生士の将来のリーダーとして囑望されている皆さん、健康に留意して、よき医療人として成功していただきたい。私たちはこれからも永遠にエールを送り続ける。君たちのさらなる成長を願ひ、学長の告辞とする。

歯髄細胞バンク ニューズレターを発刊 本学とセントラルクリニック歯髄細胞バンクでは、二月に「歯髄細胞バンクニューズレター」を作成して、校友会員や関係者に配布した。A5判8頁のニューズレターでは「再生医療基礎講座」と題し、NDU生命科学講座の石川博客員教授が幹細胞について解説、また本学生命歯学部細胞培養施設についても紹介している。



点呼を受け起立する卒業生たち(新潟短大)



又賀短大学長より学位記が手渡される

平成二十八年年度卒業生

大学院

第54回修了生

大学院生命歯学研究科修了生二十五名、新潟生命歯学研究科修了生四名は次の通り。

- (生命歯学研究科) 歯科麻酔学 新崎巴月 歯周病学 大久保美佐 歯周病学 倉治章太郎 歯科補綴学II 白鳥沙久良 衛生学

Ioan Valentin Matei

- 生化学 美原希美 小児歯科学 小口莉代 歯科補綴学I 小見野真梨恵 歯科放射線学 神垣友希乃 歯科矯正学 秋山宗太郎 歯科理工学 三浦大輔 接着歯科学 石井詔子 臨床口腔機能学 矢島悠里

- 臨床口腔機能学 新藤広基 病理学 辺見卓男

大卒

第106回卒業生

日本歯科大学第一〇六

☆臨床実習優秀賞

☆学術優秀賞

☆学術奨励生

☆学術奨励生

☆学術奨励生

☆学術奨励生

☆学術奨励生

☆学術奨励生

☆学術奨励生

中原学長50周年祝う



本校と親交の深い東邦歯科医療専門学校創立五十周年記念会が、一月二十二日に東京都日野市の同校において開催され、来賓として中原学長が、五十周年を喜ぶ祝辞を述べた。

同校は、昭和四十二年に創立され、歯科技工士学科と歯科衛生士学科を併設する名門校である。現在、本学の吉田隆一名誉教授(五十四回卒)が理事長、西田紘一名誉教授(五十四回卒)が校長をつとめる。(写真)記念式典。壇上は祝辞を述べる中原学長、左側に西田校長、吉田理事長

水野克政 美濃直輝 宮下幸大 宮田愛子 宮田侑弥 森香菜子 森清鷹 森山慧一 森岡智治 山崎桂 山廣隆宣 湯澤佳広 横内里帆 横山康雄 安部亮二 井城江莉子 荒川理人 岡本裕介 大西洋揮 坂井恵理 小松恵理 武田祥治 武田加奈 七井綾美 名古彩乃 根橋耕平 野村茜里 波羅直樹 藤田尚紀 茂木大至 山中智之 連記 梓 浅田道雄 新井隆仁 根東弘樹 中村光博 奈良映之介 正岡 鷹 又平悠里 山口輝羅

☆学術奨励生(一四四名)は、次の通り。 (生命歯学部) 平成二十八年日本歯科大学学術奨励生(一四四名)は、次の通り。

一年||古木健輔 市川さゆり 柏木鷹之進 神谷真帆 小谷比登美 佐藤 敦 寺門博史 林 美澄 林友理奈 松本恵美 宮下悠志 松本恵美

二年||渡辺尚子 岩淵柚香 大沼瑞穂 鈴木健太郎 須田隆正 中村莉子 名取健太郎 羽田真佑花 原田芽衣 山本佳史莉 三年||杉山裕央 飯塚智輝 五十嵐晃 高橋彩香 田代茂太 田端 輝 田村亮祐 榎田一馬 古田賢太郎 南ひかる 秋山 洋 赤羽由紀子 黒川理佐子

四年||別府大繁 赤羽由紀子 木村千鶴 江畑結利花 黒川理佐子

五年||中山竣太郎 松本沙織 浅田奈緒美 井上真帆 大村友希江 菅あや奈 酒井美結 菅あや奈 遠山皓基 中澤美和 水沼詩葉 山上 彩 高橋 賢 鈴木あすな 中嶋しおり 馬場龍一

六年||松岡 毅 鈴木あすな 中嶋しおり 馬場龍一

又賀教授(東京)・岩崎教授(新潟)最終記念講義

又賀教授の最終記念講義は、三月二十三日(木)午後六時より生命歯学部九段ホールにおいて行われた。演題は「私と口腔外科」で、学生、大学院生、教職員、関係者が多数聴講した。

又賀教授は昭和五十年本学卒業(第六十四回卒)。同年六月本学新潟歯学部口腔科学教室第二講座助手、講師、助教授を経て、平成七年二月教授に就任。講座統合に



△記念品を手渡す中原学長(右) △又賀教授を囲んでパチリ

より二十一年五月から新潟生命歯学部口腔科学講座を主宰し、二十五年十二月には生命歯学部口腔科学講座教授に就任した。二十四年十月から新潟短期大学学長を務める。



△又賀教授を囲んでパチリ

岩崎信一教授の最終記念講義は、三月二十四日(金)午後五時より新潟生命歯学部アイヴィホールにおいて行われた。演題は「舌の形態と機能の進化」及び「味覚性、非味覚性舌乳頭の形態形成機構」で、学生、大学院生、教職員、関係者多数が聴講した。



岩崎教授に中原学長から記念品が贈られた

平成29年度歯学会大会のご案内

平成29年度日本歯科大学歯学会大会・総会を以下の通り開催いたします。皆様のご参加をこころよりお待ちしております。

- 日時：6月3日(土) 11:00~16:30 (予定) ●会場：新潟生命歯学部 講堂・アイヴィホール ●メインテーマ 『薬物関連顎骨壊死を制するために』

2003年にMarxによっては初めてビスホスホネート製剤関連顎骨壊死/骨髄炎(BRONJ)が報告され、その対応としてガイドラインやポジションペーパーが提出され一定の治療方針が示されました。しかし、最近では他の骨吸収抑制薬や抗悪性腫瘍薬などによる顎骨壊死も報告され、薬物関連顎骨壊死/骨髄炎(MRONJ)として注目を浴びています。今回は薬物関連顎骨壊死/骨髄炎(MRONJ)の基本的知識を蓄え、医科歯科連携に基づく積極的な歯科医療により、われわれ歯科サイドから顎骨壊死/骨髄炎の発症を防ぎ、症状を抑制、そして疾患を制圧するようになればと願い企画しました。

- ◆基調講演(13:40~15:00) 「薬剤性骨壊死; 整形外科における現状と対応」 遠藤直人 先生(新潟大学大学院医歯学総合研究科教授) ◆シンポジウム(15:10~16:30) 「顎骨壊死検討委員会ポジションペーパー2016:改訂の目的と要点」 柴原孝彦 先生(東京歯科大学・口腔顎顔面外科学講座) 「呉歯科医師会における医科歯科連携の取り組み」 國原崇洋 先生(呉歯科医師会理事) 「BRONJ治療のUp To Date」 小林英三郎 先生(日本歯科大学新潟生命歯学部講師)

◆学術研究奨励賞受賞講演 大会長：山口 晃(日本歯科大学新潟病院長) ◎お問い合わせ： 準備委員長：戸谷収二(日本歯科大学新潟病院地域歯科医療支援室長) TEL: 025-211-8020 ダイヤルイン3233 toya@ngt.ndu.ac.jp

酒寄智史 初芝美穂 埴 太有 松本沙織 五年||中山竣太郎 浅田奈緒美 井上真帆 大村友希江 菅あや奈 酒井美結 菅あや奈 遠山皓基 中澤美和 水沼詩葉 山上 彩 高橋 賢 鈴木あすな 中嶋しおり 馬場龍一

六年||松岡 毅 鈴木あすな 中嶋しおり 馬場龍一

二年||竹本瑞季 風間裕友樹 七里茉莉 佐久間慎

四年||渡辺有理 畔元研太郎 大竹 萌

六年||山本雄大 阿久津里沙

岩崎教授は昭和四十八年富山大学理学部を卒業し、同年本学新潟歯学部解剖

学教室第一講座助手、講師を経て、解剖学教室第二講座、先端研究センター(組織学)助教授、教授に就任した。二十三年十月からは生理学講座を主宰した。